

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	16	事業名	ふるさと寄附金推進事業	担当部課	総務部財政課
------	----	-----	-------------	------	--------

基本情報	総合計画	基本方針	5	みんなの力を結集する自治と協働のまち	会計	1	一般会計
		分野別項目	7	健全な財政運営を維持する	款	2	総務費
		施策の進め方	-		項	1	総務管理費
	まちづくり 行程表	フラッグ	F1	「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～	目	2	財産管理費
		政策分類	2	住民サービスを向上させる	大事業	6	ふるさと寄附金推進事業
	その他(関係法令、要綱等)	—					
事業開始の背景、経緯等	平成20年度の税制改正に伴い、全国の自治体でふるさと寄附金の受入れが始まった。返礼品の負担割合を3割程度の範囲内に抑えるなど。						

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) ふるさと寄附金の受入れ開始当初は、市外の方からの寄附に対し、返礼品として「小牧・長久手の戦い」の劇画本を贈呈していたが、平成27年10月から、1万円以上の寄附をいただいた市外の方には、劇画本に加え、「あぐりん村の新鮮野菜ボックス」を贈呈している。					
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市外在住の方					
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 長久手市の知名度を高めるとともに、本市を訪れていただくきっかけとする。					
	事業を構成する事務事業	① ふるさと寄附金推進事業	拡充	④			
		②		⑤			
		③		⑥			

コスト推移	項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	事業費(A)	千円	決算	予算		-	100	100
決算					-	136	454	
人件費(B)	千円	決算		-	4,583	4,833		
総コスト(A)+(B)	千円	決算		-	4,719	5,287		

成果推移	成果指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	A 寄附金受入額	千円	目標	50	85	140	490	1,102
			実績	85	140	490	1,152	
	B 寄附受入件数	件	目標	5	10	10	14	40
			実績	3	7	14	41	
	C		目標					
実績								
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A ふるさと寄附金事業は、ふるさと寄附金の受入額及び件数が最も分かりやすい指標であるため。目標については、前年度実績とした。								
B ふるさと寄附金事業は、ふるさと寄附金の受入額及び件数が最も分かりやすい指標であるため。目標については、前年度実績とした。								
C								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 自治体によって対応はまちまちであり、返礼品に力を入れている自治体ほど寄附金が多く集まっている状況であるが、近年では、返礼品競争から距離を置き、特定の事業に対し、寄附を集めるクラウドファンディングの要素を強めている自治体が増えている。
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) これまでは、前年度決算額を目標に設定しており、平成25年度以降は目標を達成している。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 特定の事業に対し、寄附を呼びかける方法に切り替えていく必要がある。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 寄附金の返礼品競争に乗る考えはないが、平成29年度中に具体的な事業に対し、寄附を呼びかける方法に切り替える仕組みづくりを行ったため、今後は使い道となる具体的な事業を増やし、寄附を募る。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成29年度から、特定の事業に対し寄附を呼びかけていき、寄附の用途を明確にさせていく。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		ふるさと寄附金推進事業									
番号	①	事務事業名	ふるさと寄附金推進事業	款	2	項	1	目	2	大事業	6	中事業	1
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成20年度		終了（予定）年度		—						

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	ふるさと寄附金の受入れ開始当初は、市外の方からの寄附に対し、返礼品として「小牧長久手の戦い」の劇画本を贈呈していたが、平成27年10月から、1万円以上の寄附をいただいた市外の方には、劇画本に加え、「めぐりん村の新鮮野菜ボックス」を贈呈している。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	長久手市の知名度を高めるとともに、本市を訪れていたくきっかけとする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算		-	100	100	271
		決算		-	136	454	
＜事業費の主な内訳（当該事業年度）＞							
①	ふるさと寄附金事業委託				385		千円
②	クレジット収納業務取扱手数料				41		千円
③	ポータルサイト利用料				28		千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
寄附金受入額	千円	目標	50	85	140	460	1,152
		実績	85	140	490	1,152	
寄附金受入件数	件	目標	5	10	10	14	41
		実績	3	7	14	41	
＜備考：活動の概要（当該事業年度）＞							
窓口申込件数：13件 インターネット申込件数：28件							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

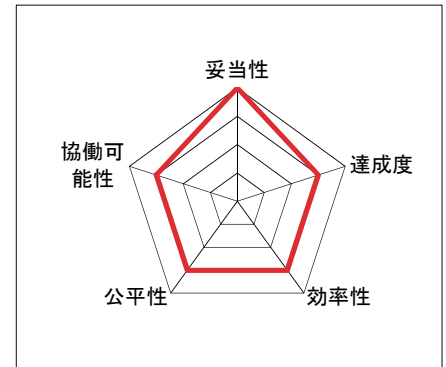
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
自治体によって対応はまちまちであり、返礼品に力を入れている自治体ほど寄附金が多く集まっている状況であるが、近年では、返礼品競争から距離を置き、特定の事業に対し、寄附を集めるクラウドファンディングの要素を強めている自治体が増えている。

5. 前年度からの改善状況

＜参考：前年度の事務事業評価のコメント＞
寄附金の返礼品競争に乗る考えはないが、特定の事業に対し、寄附を呼びかける方法に切り替えるクラウドファンディングの要素を採り入れる。また、これまで寄附金の受領は納付書による入金の方法のみであったが、今後は口座振込やインターネット上での申込みを可能とするなど、寄附しやすい環境づくりに取り組む。
(何をどのような状態に改善したのか)
平成29年度9月から、インターネット上でも寄附の申込ができるようになった。

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
寄附金額の推移は、指標ではあるが、現在寄附金を多く受け入れている自治体は、返礼品の数や内容を充実した自治体がほとんどである。寄附金額のみに着目することは、返礼品競争に乗ることにつながるおそれがある。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
平成29年度中に寄附の使い道となる具体的な事業を庁内各課等に募ったが、案が出なかった。今後は各課等に積極的に本取組を活用するよう促す必要がある。

7. 今後の方向性

拡充

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
平成29年度中に特定の事業に対し、寄附を呼びかける方法に切り替えるクラウドファンディングの要素を採り入れた方法を導入し来年度以降も引き続き続けていく。返礼品については、寄附金の返礼品競争に乗る考えはないが、市観光交流協会と協力し、新たな特産品づくりと結び付け、地域の振興につなげる。今後も寄附しやすい環境づくりや、魅力ある具体的な使い道をPRし、寄附を募る。